



JIC インフォメーション

第 197 号 2018 年 7 月 10 日

年 4 回 1・4・7・10 月の 10 日発行

1 部 500 円

発行所: JIC 国際親善交流センター 発行責任者: 伏田昌義

<http://www.jic-web.co.jp>

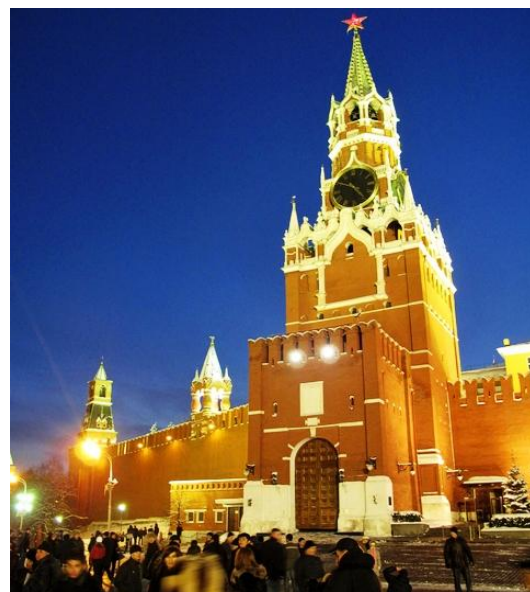
東京オフィス: 〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-14-8 YPC ビル 7F TEL: 03-3355-7294 jictokyo@jic-web.co.jp

大阪・ロシア留学デスク: 〒540-0032 大阪市中央区谷町 2-7-4 谷町スリースリースビル 7F TEL: 06-6944-2341

はりねずみのジエーニャ



ロシア・旧ソ連 国際交流誌



FIFA ワールドカップ・ロシア大会、スポーツは国と国の距離を縮める！

キルギス・ビリムカナ・カント校

日本語教師インターンシップ体験・・・勝瀬 昌義・・・2P

【ちょっと変わった留学記】

ベラルーシでロシア語特訓・・・鎌田 幸伸・・・5P

ペテルブルグのお土産屋 Matreshka Tanushka

・・・山下 篤美・・・9P

【日ロ交流情報】

文化フェスティバル、FIFA ロシア大会開幕戦観る会、
ガルージン新大使講演会など・・・10P

【本の紹介】「ロシアの躁と鬱」(中尾ちゑこ著)・・・11P

【コンサート案内】幻のバレエ「魔法の鏡」・・・13P

杉原千畝と「命のビザ」～カウナス杉原記念館・・・14P

JIC では、Jクラブ(JIC 友の会)会員を募集しています。
年 4 回の情報満載のインフォメーションをお届けします。

昨年 7 月にキルギスでの日本語教師募集の記事を載せたところ、5~6 名の方から問合せがあり、千葉の三田譲さんに 10 月から 7 カ月間キルギスに赴任していただいたのは既報のとおりです。今年は早めに募集を開始したところ、予想外に多くの問合せがあり、うち 6 名の方に 9 月新学期からキルギスのビリムカナ・グループの 2 つの学校に行っていただくことになりました。以下は、今年 5 月にインターンシップで教師体験をした大阪の勝瀬さんのレポートです。ビリムカナ・カント校の様子がよくわかります。(編集部)

キルギス ビリムカナ・カント校 日本語教師インターンシップ体験

勝瀬 昌義 (大阪市在住)

チャレンジ

「キルギスで日本語教師をやってみませんか。やる気のある人であれば、年齢、性別、学歴を問いません」

JIC インフォメーションでこの記事を見つけて、JIC 大阪支店の小原さんに 4 月 26 日から 2 週間のインターンシップコースを特別に作っていただき体験してきました。

一般の日本人には全くといっていいほど縁のないキルギスへ行き、ロシア語で日本語教師をやってみようと希望する人を想像してみると、日本語教師の資格を持っている若しくは大学時代にロシアに留学経験がある、旅行会社や商社勤務等で何かロシアに関連した仕事をしてロシア語が話せる、といった人物像が浮かんでくるかと思います。が、私は私立大学の経営学部を卒業し、一般企業の経理部に勤め、現在は損害保険の販売員をしております。ロシア語には全く縁のない人生でしたが、NHK ラジオ講座の“まいにちロシア語”を中心に 47 歳から独学で 7 年間学習しました。以前に日本語教師募集の記事を読み、いつか自分にもチャンスがあればと思っていたので、今回のキルギスでの日本語教師に思い切ってチャレンジしてみようと決断しました。

ビシュケク

しかし、実際に申し込んで出発日が近づいてくると不安感 MAX になってきました。

日本語教師を体験する以前に、そもそもキルギスって何処にあるの？ 飛行機 2 回も乗り換えあるし、無事に一人でたどり着くかな？ ホームステイのホストと上手くやっていけるかな？ ロシア語あんまり理解できないのに現地でみんなに迷惑かけてしまうかも？ と弱気モードのままで韓国、カザフスタンを経由してビシュケクに到着しました。

ビシュケクの市街地はキリル文字のせいもあってか



ビシュケク市から車で 30 分、ビリムカナ・カント校

ウラジオストックの街を歩いていると錯覚するくらいでした。至る所に食堂があり、料理はロシアとほとんど同じで、何処も 1 品 100 円から 200 円くらいで美味しそうな料理が沢山並んでいました。

また、市内の交通移動は皆マルシルルートカ（乗合いのマイクロバス）とトラレイブス（トロリーバス）を利用しています。金額はそれぞれ 10 ソム（約 20 円）、8 ソム（約 16 円）でした。私も移動はこの 2 つを使っていましたが、特にマルシルルートカは種類が多く、降りる停留所の少し前に運転手に直接知らせなければ停留所を素通りしてしまう上に、あまりの混雑で景色が全く見えず降りる場所が解らないので大変な思いをしました。また、後ろから肩をたたかれ 10 ソム紙幣が回ってきて、誰の料金か全く分からないお金を前の人に渡すシステムになっています。翌日からは比較的外の景色が見えて各停留所に止まるトラレイブスを利用しました。

それでもその身動きできないほどのマルシルルートカの車内で、お年寄りや小さな子供には皆席を譲っていま



朝はマルシルルートカが 20 台くらい並んで走っている

した。偶然ではなく日々の光景だったので、キルギスの人たちに対して好意を持つようになりました。

ピリムカナ・カント校

4月27日より2日間、日本語の授業に参加しました。

最初に驚いたのは廊下を歩いていると生徒たちが皆礼儀正しく、「こんにちは！先生」「おはようございます！先生」と次々に日本語で挨拶をしてくれたことです。本当に嬉しくなって、新しく赴任してきた先生の気分になってしまいました。授業は、アクサルクン先生が5年生から11年生を受け持っているのに同行させていただきました。

アクサルクン先生から「マサヨシ先生です」と紹介されて教壇に立ち、自己紹介をして生徒の隣に座り教科書を見せてもらい、一緒に授業に参加しました。日本語で書かれている教科書をロシア語で教えるので、私にとってはロシア語の授業を受けているような感覚でした。

内容は数の数え方等、私が中学1、2年生で習った英語くらいのレベルだったので、アクサルクン先生のロシア語は大体理解することが出来ました。また、アクサルクン先生からロシア語で質問され、私が日本語で生徒たちに説明する場面があり、興味深い授業内容でした。

また、ルクセンブルグ校での5月9日戦勝記念日の発表会に誘っていただきました。生徒たちがグループになり、第2次世界大戦の時代のフィルムを壁に映しながら当時の説明をしていました。旧ソ連の国々にとって、独立して国の名前が変わってもこの祝日はそれぞれの思いを大切にしているようで、他の祝日とは全く違う雰囲気が感じられました。



5月9日の戦勝記念日発表会

キルギス国際大学

ホストファミリーのアジスがキルギス国際大学の講師で、日本語の授業に参加してほしいと言ってきました。午前中は申し込んでいたロシア語の個人レッスンが入っていたので、午後から国際大学で授業参加という日程になりました。

大学の入口でエルミラ先生と待合せ、内容を聞いたところ日本語の授業を選択している生徒は7人で毎日授業が行われているとの事でした。初日はピリムカナと同じように授業に参加したのですが、翌日になるとエルミ



日本語ゼミの授業風景

ラ先生は他に用事があるらしく「マサヨシ先生お願いします」と言って教室を出て行ってしまいました。学生たちの嬉しそうな表情を見ていると出来ませんと言えず、腹をくくって一人で授業をやってみようと思い決めました。人数が少ないので、学生たちの中に入り、日本語ゼミのような形で始めてみようと思い、学生たちに提案しました。順番に当てていき日本語の文章を読んでもらい、それを私がロシア語で説明するような形で進めました。学生たちは熱心に文章の内容を質問してきますので、それに答えるために全力で取り組み、翌日からはゼミ仲間のような関係になりました。



キルギス国際大学

ピリムカナ学校の研修旅行

カント校のアイザダ校長先生より「5月5日～8日までジャラル・アバト校で研修があるからいかがでしょうか」と誘っていただきました。即、「行きます」と答え、内容も全く分からず研修に参加することになりました。研修と言われたのでカント校とか近くのルクセンブルグ校の感じで思っていたら、マルシルートカで11時間と言われて、「これはちょっと厳しいな」と思って打ち明けると、アイザダ先生は「飛行機なら50分くらいですよ」と言ってくれて、飛行機で移動することになりました。

飛行機の手続きは学校のマハバットさんが手配してくれ、ビシュケクからジャラル・アバトまで連れて行っ

てくれました。ジャラル・アバト校に着くと、研修の参加者は約 300 人もいて、ビリムカナ・グループ（キルギス各地にビリムカナ学校がある）の関係者全員が集まっているとの事でした。受付で参加者名簿にキリル文字で自分の名前が入っているのを見て何故か不思議な気持ちになりました。

研修が終わりマルシルートカで中心街の劇場へ移動し、キルギス民族楽器のコムズの紹介の後、実際に子供たちのコムズ演奏を聴き、演劇も見せてもらいました。その劇場で偶然隣に座っていたのがビリムカナ・グループの理事長で、私が日本から参加していると言うと大変喜んでいただき、キルギスの語学教育についての話を直接聞くことが出来てとても勉強になりました。



民族楽器コムズの演奏



左、ビリムカナ・グループ理事長(右が筆者)

マハバットさん

ジャラル・アバドでの宿泊を担当者に確認したら、「6 人部屋なのでホテルに泊まったほうが良いです」と言ってくれました。それで近くのホテルを探していたら、マハバットさんから「私の実家がジャラル・アバトなので家に泊まって下さい。お母さんも待っています」と言っただき、3 日間お世話になることになりました。

マハバットさんのお母さんの手料理は本当に美味しく、キルギス料理を堪能しました。翌日マハバットさんが「綺麗な湖が見られるので一緒に行きませんか」と誘っ

てくれて、サリチェレクへ観光に行くことになりました。マハバットさんと気さくで親切な運転手サマットさんの 3 人で、2 日間の国内旅行、キルギスの景色を満喫しました。帰りはオシの空港まで送ってもらい一人でビシュケクに戻ってきました。ビリムカナ学校の研修旅行に参加したはずなのに、いつの間にか途中からマハバット家ホームステイ体験旅行に変わっていました。



サリチェレクでマハバットさんと

日本語教師インターンシップ体験を終えて

振り返ってみると緊張の連続でした。本当に沢山の方に紹介されたので顔と名前を間違えないように気を付けたり、待合わせの場面が多かったので時間に間に合うか心配しました。日本語の授業中や日常の会話の中で、何度も聞き直す事が出来ずに理解出来る単語だけ拾ったものの全体の内容を把握出来なかったり、伝えたいことがあるのに単語が出て来なくてロシア語のスキルの無さに落ち込んだりしたことが多々ありました。

不安と勇気の葛藤の末、不安が勝てば日常のままで、勇気が勝てばチャレンジへと進みます。

新しくチャレンジしたことによって、思い描いた結果が出るどころかさらに大きな不安や困難に直面してしまう事も多々有ると思いますが、私はその状況を日常と思えるような人物になりたいと常日頃考えています。

ビリムカナ学校での日本語教師経験に関しては人生の選択肢が一つ増えた実感しています。長期は無理でも自分のスケジュールや体力に合わせてもう一度日本語の授業に取り組んでみたいと思っています。

●JIC よりお知らせ●

今年 9 月から日本語教師としてキルギスに行っていたく方は 6 名で確定しましたが、ビリムカナ学校は来年以降も引き続き協力して下さる方を求めています。

2019 年 9 月赴任予定のキルギス日本語教師募集は今年秋から開始します(JIC インフォメーション 10 月号に募集要項を掲載予定)。

【ちょっと変わった留学記】～その1: 特訓編

ベラルーシでロシア語特訓

鎌田 幸伸(ロシア語通訳案内士／奈良県在住)

ロシア語通訳案内士の鎌田幸伸さんから、面白い「留学記」を送っていただきました。鎌田さんは、通訳案内士試験を突破するために、なんとそのためだけに 2016 年 8 月から 11 月までベラルーシのミンスク言語大学に留学し、「試験対策の特訓」を行いました。留学記は、ミンスクの街の様子やそこでの出来事、学生寮や図書館、青空市場、郊外への見学ツアーなど多岐にわたりますが、今回は鎌田さんの特訓ぶりに絞って留学記を抜粋・要約し、紹介させていただきます。(編集部)

なぜ自分はミンスクに来たか

一昨年(2015 年)の 12 月にロシア語通訳案内士(ガイド)の口答試験を東京で受けた。試験は 2 問……①試験官が読み上げる日本語の文章を 1 分以内にロシア語に訳す口頭作文、②指定された 3 つのテーマから一つを選んでロシア語で行う日本文化のプレゼンテーション。

惨憺たる出来だった。口頭作文は日本語の内容をメモしたがロシア語に訳せない。無情に時間が過ぎる中で言葉の出でこない自分を 2 人の試験官は悲しげな目で見ていた。プレゼンのテーマは、「冬至」「けん玉」「街コン」から選ばなくてならなかった(よくもこんなおかしなテーマばかり選んだものだ)。「街コン」を選んで、普通の「合コン」と思って話したら、後でまったく的外れとわかりガックリした。

2 月に不合格とわかった。「いくら勉強しても的を絞れない、ある意味で不毛な語学力を問う試験」を放棄してもよかった。幸か不幸か、筆記試験の 4 科目はすべて同時に合格していた。それで今年(16 年)は筆記試験免除で口答試験のみに集中できた。「今、ここでやめたら後悔する」と思って、それからは 12 月の試験を目標に新たに取り組み始めた。

「テーマを選び、その資料を読み、3～4 文のロシア語で説明文を書き、同時に日本語の情報も書き込むノート」の作成に一から取り掛かった。それまでは主に通訳案内士試験対策を扱っている通訳学校の対策問題・模範解答をロシア語に訳して覚えていた。が、それではうまく行かなかった。個々のテーマについて自分で調べ、自分の言葉で説明できなければプレゼンしたり、想定外の内容の文章を通訳したりできない。結局、無駄足のような地味な努力しか通用しないと反省した。

大学受験ではあるまいし、ロシア語通訳案内士の予備校



ミンスク言語大学の学生寮(提供: 藤田勝利さん)

なんてない。一昨年に知り合ったロシア人の留学生に頼んで作文を直してもらい、週に 1 度 1 時間スカイプで会話の個人授業を受けた。ウィークデイの夜に授業を受けると、次の日はストレスであまり集中できず頭がぼんやりしている。バイトもせずに勉強だけに専念しているわりにはそれほど集中できない。コツコツと作文しノートを作っていたが、「自分のロシア語は果たしてロシア語圏の国でどれだけ通用するのか」不安になってきた。大体、週に 1 回 1 時間ロシア語を話すぐらいで会話力が鍛えられるだろうか? ロシア語の会話力を鍛える、ただそれだけの理由で短期留学を決めた。

ロシア語圏の国は入国するのにビザがいる。ビザを取得するのにロシアは最低 3 ヶ月かかる(*注)。ベラルーシは 2 ヶ月、EU に入っているラトビアはビザなしで行ける。私はサンクトペテルブルグには 3 年間住んでいた。知り合いもいる。けれどもその都市にもう一度学びに行こうとは思わなかった。学費が一番安いのはベラルーシ。学費は高いが早くいけるのはラトビア。で、前者にした。……。

7 月 31 日に出発して、8 月から 1～2 ヶ月ぐらいいよう。調子がよさそうなら 11 月半ばまでベラルーシにしようと思った。ベラルーシという国はほとんど何も知らない。……。今まで行ったことのない、日本から 1 万キロ以上離れた、誰も知り合いのいない、日本語の通じない国に行く、しかも目的は 12 月のたった 10 分足らずの試験のため……大胆といえば、これぐらい大胆な留学もないかもしれない。ベラルーシの首都・ミンスクに到着後、寮から日本の知り合いに電話したら「ようやるわ」と言われた。

*正確には、ロシアの留学ビザ取得は約 2 カ月、ベラルーシのビザ取得は 1 カ月半でできる(2018 年 4 月現在／編集部)

ナターシャ先生

8 月いっぱい「先生方の多くは休暇中でいません」とのこと、グループの授業に私は参加することになった。

この大学の外国人向け講座は 10 くらいのグループに分けられている。一人の先生がグループを 2～3 ヶ月担当して、1 日に 2 コマ(一コマ 80 分)を受け持つ。だから定期的に先

生が入れ替わっていくのだが、この大学にほぼ 10 ヶ月いた日本人学生によると、ナターシャ先生は外国人学生の間では 1、2 を争う人気講師らしい。

私は大学の初日にロシア語レベルをはかる試験を受けるものとばかり思っていた。入学案内には「最初の日に選抜テストがある」と書いてあった。だが私がロシアでの留学証明書のコピーを事務で渡すと、「あなたはハイレベルのクラスに入ってください。テストの必要はありません」と言われた。それだけ長期間勉強した学生はいなかったようだ。

「この先生があなたのグループの先生ですよ」と紹介されたのがナターシャ先生である。若々しくて瑞々しい、可愛らしい先生である。「にこにこ」と微笑んでとても印象がいい。ただ、先生はミニスカートをはいていた。しかも膝上 3 センチは軽くありそうな……。ナターシャ先生は「本職はモデル」かのように、毎朝キメてきた。黒い上下の下着が薄く透けて見える茶色のワンピースを着てきたこともあるし、「エジプトの王女様」ルックスの服を着てきたこともある。8 月といえば夏の真っ盛りだから、胸の谷間を強調する服を着てくる。私はこの先生を前にしていると自分の忍耐力が試されているような気がして、実にニガテであった。だからグループの授業では極力目を合わさないでいられる席に着いた。

グループには世界各国から様々な経歴、年齢の人が集まる。私はこのグループの授業というのもまたニガテであった。外国人のロシア語の発音がよくわからないのである。それに慣れるには時間がある。ナターシャ先生は毎日一度は「では皆さん、3 人ぐらいのグループで、〇〇のテーマで話しあって結論を出して下さい。あとで発表をしてもらいます」という課題を出した。それは会話のトレーニングとしては当然のことである。けれども西洋人だの、南米人だの、中東人だの初めてみる国の人々を目の前にするとアガってクラクラするし、おまけに発音がなんだか聞き取れない。……。

ナターシャ先生は「ハツラツ」としてテーマを学生たちに与えてはよく会話させるようにした。学生がいくら授業をすっぽかそうが、遅刻しようが、宿題を忘れようが、勉強不足だろうが、授業中少しもイヤな顔をしない……。この先生は発音がよかった。外見がモデルのように美しいだけではなく、話すロシア語もキレイだった。今から思えば、彼女の好きなロシア語の詩を朗読してもらい、それを録音させてもらえばよかったかもしれない。

イリーナ先生

9 月からは個人授業を受けた。グループ授業は、学費は安かったが、「とにかく日本文化のプレゼンテーション」のトレーニングの量を積みたかった自分には物足りなさすぎた。4 人の女性の先生に個人で授業を受けることになった(外国人にロシア語を教えるコースには女性の先生しかいない)。

一人目はイリーナ先生。まだ 30 歳にならない若い先生。

この先生は丸顔で本来は古風な顔のつくりであったが、「あえて現代の若者風で若さを強調する」かのように、右目の眉毛に金色のピアスを二本通していた。寡黙な感じで愛想笑いなど決してしない。……。

授業は一コマ 80 分である。初めに(私が)自分でレコーダーに吹き込んだ日本文化のテーマの作文を先生に流してもらい、1 分以内に口頭通訳するトレーニングを 3 回ほどやった。それからプレゼンテーションのトレーニングをやった。……。まず、日本文化のどの分野を選ぶか決め、その分野から任意に先生にテーマを選んでもらう。その後 2 分間、そのテーマのプレゼンをロシア語で私が行う。2 分が過ぎると先生に質問をしてもらい、それに答える。さらに文法、発音、ロシア語らしい自然な話し方について間違いがあれば先生に指摘してもらい、また彼女がもっと知りたいことがあれば自由に質問してもらう。その方法をとると 80 分あっても、実際のところ 3 つか 4 つのテーマしか話せなかった。

イリーナ先生は、無表情で事務的に授業を進めているような感じがしたが、実際のところ「何が何でも国家試験に合格したい」という私の気持ちを一番理解してくれていて、実際のテクニックを教えてくれた。口頭作文でうまく全体を訳せないときは、「メモは話を全部書きこもうとしてはいけない。固有名詞、年代、数字を書いて、それをヒントに訳す」とアドバイスしてくれた。

松島のプレゼンをする、質疑応答で彼女は次の様な質問をした。「松島には何十という小島があるそうですが、その島にはホテルがあつて宿泊できるのですか?」。松島観光案内所の職員でもあるまいし、そんな質問に自分は答えられない。すると「意表をつく質問されて答えに窮したときはユーモア・冗談で返すものですよ。たとえば、そんな質問には『多分、松島の群島にホテルがあつて観光客が押し寄せれば、ここは日本三景と呼ばれるような名所にならなかったでしょうね』という風に。試験官といい、観光客といい、ユーモアで返事をされればそれで納得するものですよ」と教えてくれた。それから答えられない質問にはいかにユーモアのあふ返事をするか考えるようにして、次第にそれができるようになってきた。

また選ばれたテーマを消化できず、しどろもどろにプレゼンすると「まず、基本的な事実を話してください。いつ、どこで、それは何かを。それから枝葉となる情報を話してください。そのテーマの具体像をまずはっきりさせないと、聞き手はイメージしづらいです。」

口答作文対策をしている時に、日本文を 2 分以内にうまく訳せないことがあった。通訳に窮する私に彼女はこのように指導した。

「ある一定の数のロシア語の文章を覚えなくてははいけませんよ。過去問に出てくるロシア語の作文は全部覚えてくださ

い。私の父はスペイン語の通訳をしています。ある時テレビでベネズエラの大統領とベラルーシの大統領の対談を父が通訳していました。自由自在に通訳するので私は驚いて、父が帰宅すると『どうしてあんなに自由自在に通訳できるのか』と聞きました。父は『それは経験によるんだ。ある程度のスペイン語の文章を暗記しているので会話の言葉をその定型に当てはめて話している。また、ロシア語にない冗談や諺を話されたときでも、自分流に取捨選択、言い換えて話の全体像がわかるようにロシア語にしているよ』と言いました。ですから基本的な文章は必ず覚えてください。」

ソフィヤ先生

彼女は 50 代半ばの先生だった。経歴多彩で、昔キューバでロシア語を教えていたことや、スペイン語通訳として活躍していたこともあった。日本の俳句が好きで毎晩寝る前に数句ロシア語で読んで寝るという。彼女はあまり威張らないが教養は最も高く、講師の間で尊敬を勝ち得ていた。というのはこのロシア語学科で教材(教科書)を作成する時、最終校閲者は彼女だったのである。教養の高さもさることながら、人徳もあつく、ベラルーシの知識人・ジャーナリスト、他大学の研究者とも親交があつて、よくその話が出てきた。日本通のロシア人ジャーナリストが書いた日本文化論「桜の花はいつ咲くか」(*注)という本を読むように勧めてくださった。

* 邦題「桜の枝へソ連の鏡に映った日本人」(フセヴォロド・オフチニコフ著、サイマル出版)のこたか(編集部)。

最初ソフィヤ先生に授業を受けた時、手加減してゆっくり話をされているように感じた。同じ言葉を 3 回言う癖がある。私が「手加減してゆっくり話さないでください」と頼むと、「いいえ、私は少しもゆっくりと話していませんよ。これが私の普段の話し方です。それに私は厳しい先生として学生からは怖がられていますよ。」と言われた。私は実に意外な感じがした。

私は、口頭作文対策として毎回違うテーマの日本語作文をレコーダーに吹き込み、それを試験方式で通訳した。日本文化についての作文を 300 テーマぐらい書き、その目次を先生に渡し、授業ごとに違うテーマで質問してもらってプレゼン対策をした。この「300 テーマの目次」はオリジナルな方法らしく、ソフィヤ先生は気に入られたようであった。

ソフィヤ先生に教えられたことは人間性の重要さであった。初めてのプレゼンのテーマは着物であった。わたしは事前に作文に書いたことを思い出しながらしどろもどろに、青くなったり赤くなったりしながら話した。先生はにこにこしながら言った。

「あなたの話は情報の断片の継ぎ合わせですね。軍隊で部下が上官に報告しているような感じで機械的な感じがします。もっと魅力的に、おもしろく話してください。日本文化を外国の人が興味を持てるようにもっと明るく、楽しんで話して

ください。人はおもしろく興味深い話を聞いていると些細な文法の間違いは気にならないものです。」

それから私は「いかに完璧に話すか」ではなく「いかにおもしろく話すか、にこにこ微笑んで話すか」に気をつけて話すようになった。

ソフィヤ先生のもっとも魅力的なところは「自分の授業を受けている学生はみんな自分の子どもように感じる、心のあたたかさ」のようであった。

似たようなテーマでプレゼンの練習をしているとしんどくなってくる。……、一ヶ月ほどしてから、以前日本でロシア人留学生と一緒に作成した作文から 3~4 つテーマを選んで書き抜き、ソフィヤ先生に見せるようにした。初めて見せた作文のテーマは明治維新だった。ロシア人の大学院生が直してくれたのであるから間違っているはずがない…のだが、ソフィヤ先生はガラッと人格を変えて言った。「これはロシア語ではありません！」。

奈良公園について 2 人のロシア人留学生に直してもらった作文を見せても、「これはロシア語ではありません。意味がわかりません」と言った。

……。今まで何年もかかって書きロシア人の留学生に直してもらっていた作文を見せるにつれ、先生の機嫌は損なわれてきた。私もガックリすることが多くなった。実は私も大学でロシア人の学生に日本語を教えていたことがある。彼らが書く日本語作文はまず「普通の日本文」として通らない。だがロシア語はさらに難解なのかも知れない。

日本文化についてある一つの事柄を、日本文から辞書を引きながらロシア語に直すとする。それをロシア人に見せると、ほとんど必ず「こんな言い方はしない」と直される。問題はそれからである。直された作文を別のロシア人に見せるとまたもや「こんな言い方はしない」と直される。人に見せるたびにそれが繰り返されるのである。この大学の先生に直してもらった作文を、別の先生に見せると「こんな言い方はしないし、普通のロシア人がどうしてこんな間違いをしたのかわからない」と言われたこともある。ロシア語とはロシア人同士でも解釈が異なる言語なのだろうか。

ただ、ソフィヤ先生はそれを明解に解決されていた。「文章を直したり直されたりすることが、どうしてよくないのです？ 原稿に書かれた文章とは共通の素材であって、誰もが校閲する機会を与えられています。もちろんわたしが直した文章も直されるでしょうね……。けれどそうやって表現は育っていくものです」。

言われてみれば「そういうものかな」という気もする。だがお金を払って作文を直してもらい、それをその度に正確に暗記し即戦力として使うつもりでいる自分にはたまったものではない。

後で違う先生に、ソフィヤ先生に添削された作文を見せる

と、まともや直されてしまった。その先生は言った。「まあ、あの先生はどうしてこんな初歩的な文法のミスをしたかしら？」

アレクサンドラ先生

9 月が過ぎようとする頃、イリーナ先生は二週間の休暇に入ることになった。個人授業はアレクサンドラ先生が引継ぐことになった。「アレクサンドラ先生って、どんな先生なのでしょう？」と聞くと、「心配することはありませんよ。新人の先生の研修を受け持っている先生がアレクサンドラですから」とイリーナ先生は言った。

アレクサンドラ先生は 50 過ぎぐらいのベテランの先生である。髪の毛は真っ黒なのだが、肌は真っ白で青い目をしていていた。

個人授業を受け始めて一ヶ月が過ぎようとするころ、私は自分の学習スタイルに“ある種の危険”を感じ始めていた……作文のテーマとプレゼンのテーマが、ワンパターンになってきている。

国家試験の範囲とは「日本文化」である。わかりやすく言うなら、「日本の今朝の新聞に書いてあることすべてを、海外事情と特殊な専門用語を除いて、ロシア語で通訳しプレゼンできるか」ということである。ペラルーシに来るまでに 300 のテーマでノートをつくり、作文を書き暗記してきたが、「口答試験に 2 度落ち、しかも 2 度とも自分の納得のいくような返答ができなかった」という敗北感が、「こんな調子ではまた落ちるぞ」と私にささやき始めた。方法は一つしかない。プレゼンのテーマを増やしてできるだけ多くの作文を書き、作文、単語とともに暗記し、話すことである。インターネットで検索して国家試験の過去問題を調べあげた。口頭作文はこの 3 年間で 50 ぐらいあった（なぜこれほど多いかと言うと、問題は年度だけでなく 1 時間ごとに異なるからである）。私はそれらすべてを日に 4~5 問ずつロシア語に翻訳して先生に見せて直してもらい、その日のうちに暗記して、翌日の授業で暗誦した（先生は驚いた）。

新しいプレゼンのテーマも過去問を参考に「一日に最低 4 つ」とノルマを決めて書き始めた。

アレクサンドラ先生に見てもらった作文は……日本人の苗字、一汁三菜、姫路城、六文銭、長崎市、伊勢志摩、地球温暖化、鵜飼、東京スカイツリー、ハロウィン、バレンタインデー、血液型、朝市、黒船、金沢、仙台、出雲大社、松江、白川郷と五箇山、高山、沖縄、野口英世、伊藤博文、夏目漱石、福沢諭吉、新渡戸稲造、樋口一葉、源氏物語、築地市場、小笠原諸島、棚田、JAPAN RAIL PASS、北海道新幹線、東海道五十三次、金閣寺、北山文化、古事記、日本遺産、伊達政宗、お水取り、千利休、日本料理、五重塔、卑弥呼、小京都、足利義満、白神山地、八幡製鉄所、寝殿造り、東山文化、銀閣寺、書院造、伊勢神宮、奈良公

園、春日大社、東大寺、江戸時代、法隆寺、有馬温泉、聖徳太子、浅草、屋久島、日本人の習慣、温泉、日本の気候、明治維新、地方自治体、遍路、……。

11 月の最後の授業の日、アレクサンドラ先生は言った。

「今までいろんな学生を指導してきましたが、あなたほど多岐にわたるテーマについてロシア語で話をし、作文を書いた人はいませんでした。あなたの好奇心と知識の量には、お世辞でなく脱帽です。拍手喝采に値します。わたしは日本をよく知りませんでしたが、あなたの話を聞いて興味が湧いてきました。これから折をみて日本についての本を読んで、あなたの国のことをもっと知りたいと思っていますよ。」

再びナターシャ先生

10 月半ばから 11 月初旬にかけて、私はナターシャ先生から個人授業を受けることになった。

午前中にアレクサンドラ先生からひとコマの授業を受けて、午後からナターシャ先生からひとコマ授業を受けた。アレクサンドラ先生には、寮で書いた作文を見せて書き直し、時間があればプレゼンの訓練をした。ナターシャ先生とはもっぱらプレゼンの訓練をした。どうしてか…？ いつも“にこにこ”しているこの先生と「日本語とロシア語の表現の仕方の違い」でケンカしなくなかったからである。また、8 月に彼女に直してもらった作文を他の先生に見せたところ「こんな言い方はしない」とすぐ直されてしまい、困惑していたからでもある。今から思えばそんな「授業の受け方」を逆にして、この先生のもっと違う一面を見て、切り口の異なるロシア語を学んだ方がよかったかも知れない。

……。しかし、私の選択はある意味賢明なものであった。もう 2 度も落ちた口答試験で、ただでさえ緊張してアガっている状態で、「いかにも外人」という試験官がペラペラとロシア語で質問するのを「どう沈着冷静に切り返して答えるか」というトレーニングをするにおいて、ナターシャ先生ぐらい適した人物はいなかったであろう。なぜか？ 彼女は映画女優のように美しかった。有名人ならオードリー・ヘプバーンに感じが似ていた。日本女優なら若い頃の吉永小百合、現代なら広瀬すず。試験官にオードリーや吉永小百合みたいな美人が出てきて、彼女たちと視線をピッタリ合わせて冷静に質問に答えられるようになれば、多分本当の実力と思う。

ナターシャ先生は、日本についてステレオタイプな知識しかなかったの、自分にとって「外国人にわかりやすく日本を紹介する」にはいい勉強になった。この先生には、「魅力的な人物が共通して持つある才能」があった。それは「人生や生活を大いに心から楽しむ」というそれである。そういう才能を持っている人は、精神が生き生きとしていて活力があるから、自然と周囲にいる人も元気が出てくる。ナターシャ先生の授業を受けているとクヨクヨしているのがバカらしくなってきた、気持ちがグンと上向きになるのを感じた。（つづく）

お土産屋さんで、ロシア語を楽しもう

お土産屋 Matreshka Tanushka SPB

サンクトペテルブルグ 山下 篤美

ペテルブルグの地下鉄ウラジーミルスカヤ駅に隣接する「クズネチニー市場」をご存知でしょうか。

近年、庶民の台所を預かる場としては、郊外の大型スーパーや市内のミニスーパーにその座を空け渡しつつある市場ですが、きれいに並べられた果物や野菜、中央アジアからの食器やドライフルーツ、ナッツ、ちょっと懐かしい気持ちになる雑貨、そして蜂蜜の味見、時には水槽で泳ぐチョウザメの姿をながめ、さらに気さくな店員さんとのロシア語によるやり取り...、そんなほのぼのした体験ができる市場は、昔ながらのロシアを肌で感じられる場所と言えます。クズネチニー市場はドストエフスキー博物館にも近いので、夏の間、ロシアの日常生活を垣間見ようとする外国人観光客が、この市場に多く立ち寄っています。

このクズネチニー市場の一角に、マキシム、タチアナ兄妹が経営する土産物屋「Matreshka Tanushka SPB」があります。二人がここに店を構えて 8 年。サンクトペテルブルグ美術大学を卒業したタチアナさんが作るオリジナルのマトリョーシカ柄の、鍋つかみ、バッグ、エプロンが人気です。これらの布雑貨はペテルブルグ在留邦人の間でも知られており、帰国時のお土産によく選ばれています。タチアナさんは日本に旅行したことがあり、その旅行から商品づくりのアイデアが浮かんだとか。日本人に受け入れられる「可愛さ」の秘密はそのあたりにあるのかもしれませんが。

作家の手作りによる一点物の美しいマトリョーシカや、まとめ買いできる手軽なマグネット、教会の形のオルゴール(もちろんチャイコフスキーの曲)など、民芸品のラインナップも充実しています。

そして、何といっても値段がつけられない、二人の優しい笑顔と接客態度が何と言ってもこの店の最大の魅力です。決して大きくない店ですが、有名店とは違ったお土産選びの楽しさがここにはあります。ましてやロシア語学習経験者の方なら、尚のこと。

ペテルブルグにロシア語の勉強にやって来る人にはもちろん、観光旅行で訪れる人にも、絶対おススメのお土産店です。

(JIC サンクトペテルブルグ連絡員)

写真:土産物屋「Matreshka Tanushka SPB」の商品棚と特徴のある布雑貨



第 1 回ロシア文学読書感想文コンクール

「私のトルストイ」

課題作品:トルストイ作『幼年時代』(中学生の部)

『復活』(高校生・大学生を含む青年男女の部)

応募資格:中学生・高校生および 23 歳未満の青年男女

応募期間:2018 年 8 月 24 日~9 月 7 日

提出先:NPO 法人ヘラルドの会

住所:107-0062 東京都港区南青山 2-2-15-502

審査員:(敬称略)

金沢 美知子(日本トルストイ協会副会長・東京大学名誉教授)

三浦 正巳(日本トルストイ協会理事・事務局長)

伊東 一郎(早稲田大学教授・ロシア文学者)

宮腰 尊史(新潟放送・東京支局長)

阿部 昇吉(作家・スラヴァ書房代表)

鈴木 芳子(翻訳家・ドイツ文学者)

入賞発表:10 月末日

表彰式と朗読鑑賞の集い

日時:2018 年 12 月 9 日(日) 14:30 開場 15:00 開演

会場:東京・両国 シアターX カイ

入場料:1000 円(全席自由席)

主催:NPO 法人ヘラルドの会

(連絡先:E-mail herald@jd5.so-net.ne.jp)

《日交流情報》



2018 ロシア年・ロシア文化フェスティバル チャイコフスキー・プログラム 歌劇「イオランタ」でオープニング

6 月 12 日、東京・六本木のサントリーホールにて、2018 年日本におけるロシア年・ロシア文化フェスティバルのオープニングを飾るコンサートが開かれました。ミハイル・プレトニョフ芸術監督が指揮するロシアナショナル管弦楽団と日ロの演奏家・オペラ歌手が共演、チャイコフスキー作曲の歌劇「イオランタ」を歌いあげました(日本語字幕付き)。

コンサートに先立って、文化フェスティバル組織委員会を代表して、ロシア側から M.シュヴィトコイ・ロシア大統領文化特別代理、日本側から高村正彦・自民党副総裁が挨拶に立ち、『文化・芸術を通じて日ロの相互理解を深めよう』と呼びかけました。また、コンサート後は、近くのホテルに会場を移して、オープニングパーティが開かれました(ロシア文化フェスティバルの今年のプログラムは、以下のサイトでご確認ください)。

<https://www.russian-festival.net/program.html>



FIFA ロシア大会開幕戦を観る会 大阪日ロ協会と在住ロシア人ら 約 40 人が梅田で真夜中の観戦！

6 月 14 日、FIFA ワールドカップ・ロシア大会がモスクワで開幕しました。これに合わせて、開幕戦(ロシア対サウジアラビア戦)に関西在住ロシア人のみなさんと一緒に応援しようと、大阪日ロ協会(藤本和貴夫理事長)、大阪府サッカー協会(赤須陽太郎会長)、在大阪ロシア総領事館(O・リャボフ総領事)の呼びかけで「開幕戦観る会」が大阪・梅田のスポ



ーツカフェ ESTADIO で開かれました。試合開始はモスクワ時間夕方 6 時(日本時間真夜中の 12 時)。結構ハードな企画にも関わらず約 40 名の参加者が集まり、朝日新聞、毎日新聞、MBS テレビなどの取材も入って、大いに盛り上がりました。

当初、前評判の高くなかったロシアチーム、また日本チームも一次リーグで強豪に競り勝ち、ワールドカップの熱気は、開催国ロシアはもとより日本でも急激に高まりました。FIFA ワールドカップを機に、サランスク、エカテリンブルグ、ボルゴグラード、ロストフ・ナ・ドヌーといった日本ではほとんど知られていなかったロシアの地方都市が注目を集め、またマスコミの取材などを通じて現在のロシアの等身大の姿がほぼ 1 カ月間にわたり連日伝えられたことは、嬉しい限りです。

今次ワールドカップ大会を通じてロシアへの関心が高まり、「どれ、今度はロシアに旅行してみようか」という人がさらに増えるといいですね。

ガルージン・ロシア大使 歓迎 安保研・日ロ協会などが講演会

6 月 29 日、東京六本木の国際文化会館にて、今年 4 月に赴任した M.ガルージン駐日ロシア大使の歓迎会を兼ねた講演会が開催されました。長らくソ連・ロシアとの政治外交関係の専門家交流を続けてきた安全保障問題研究会の呼びかけで、日ロ協会、日ロ交流協会、日本対文協が協力して開かれた講演会には、各団体から約 150 名が参加、「ロシアの外交政策と日露関係の展望」と題したガルージン大使の講演を熱心に聞き入りました。

ガルージン大使は、「日ロ関係は国際情勢の動向と密接に関連している。今日、国際関係は複雑化し、対話のスペースが狭まり、紛争が発生しやすくなっている。多極化世界の形成とともに G20 をはじめ東アジアサミット、上海協力機構といった多国間協調機関の役割が増大する一方で、西

側には多極化の現実には抵抗し軍事政策に傾斜した一極型の支配的立場を存続させようとする行動が国際関係に危険な影響を及ぼしている。ロシアは国際法に基づいて、国連をはじめとする多国間協調で集団的に国際問題を解決する努力を続けている。東アジアでは日本は重要なパートナーであり、日ロ協力は欠かせない。先の首脳会談で決まった北方 4 島での共同経済活動をはじめ、日ロ間の全般的な協力関係の拡大が長年の懸案解決の条件を作り出すと考える。」と述べ、経済、教育、文化など各分野で日ロ交流の拡大へ参加者に協力を呼びかけました。



ミハイル・ガルージン大使の略歴；

1983 年 モスクワ大学付属アジアアフリカ諸国大学卒業、ソ連外務省に入省

1983-86 年 駐日ソ連大使館職員

1992-97 年 駐日ロシア大使館職員

2001-08 年 駐日ロシア大使館・公使

2010-12 年 ロシア外務省第 3 アジア局長

2012-17 年 駐インドネシア共和国ロシア大使

2018 年 3 月～駐日ロシア大使

2018 年日本におけるロシア年

日ロ友好愛知の会が音楽の夕べ 加藤登紀子さんのディナーライブ

名古屋では、5 月 18 日に『日本におけるロシア年』の文化行事として、加藤登紀子さんのディナーライブが日露友好愛知の会(理事長小林功愛知県議会議員)の主催で開催されました。加藤登紀子さんはロシアの民族楽器バラライカ奏者の北川翔さん、ピアニスト鬼武みゆきさんの伴奏で、「百万本のバラ」などロシアの曲を歌い上げるとともに、戦前ハルビンでロシア語を学び日本に引き揚げ後はロシア料理店を経営した父・加藤幸四郎さんの思い出などを交えながら、ロシアに寄せる想いを語りました。

本の紹介

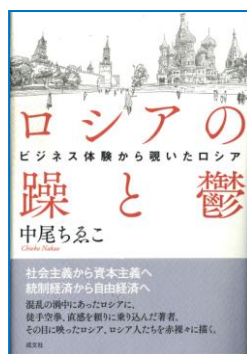
「ロシアの躁と鬱」

～ビジネス体験から覗いたロシア

著者；中尾ちゑこ

発行；成文社

定価；1600 円＋税



著者は 1969 年天理大学ロシア語科卒。最初に勤めたソ連に機械輸出していた大阪の商社は入社 4 カ月で倒産、次に大手家電メーカーでソ連向け輸出プロジェクトに携わり、貿易実務や機械技術資料の翻訳業務を経験して、1976 年に自ら技術翻訳会社を立ち上げた。対外進出する企業の契約書、技術資料、カタログの翻訳などで業績を拡大し、やがて海外人材育成や市場調査、海外進出をサポートする会社へと発展していった。

1993 年末、ソ連崩壊直後のロシアを初めて訪れ、以来、ロシアに魅せられ、市場調査、ビジネスマッチング、コンサルタントなど、ロシアビジネスにのめり込む。本書では 25 年間におよびロシアとのビジネス体験から、ロシア人特有の習性や生活観・ビジネス観が、そのするどい人間観察によつて的確にまたユーモラスに描き出されている。ロシア人とある程度つきあったことのある人には思い当たることばかりで、読みながら思わずクスリと頷いてしまう。

詳しくは本書を読んでいただくとして、紹介を兼ねていくつか引用しておこう。

● 後にビジネスパートナーとなるタチアーナ・N に尋ねたことがある。「ロシア人は優秀な学生とそうでない学生、金持ちとそうでない人、権力者と権力に従う人、気候も酷暑の夏と厳寒の冬。あなたたちの国にはほどほどのおだやかな中間というものが無い。日本では家庭の所得層も中流イコール一般多数をしめているけど、ロシアってすべて両極端に分かれていると思わない？」

それに対する彼女の答え。

「中間にいるなんて落ち着かないよ！上か下か、右か左か、内か外か、最初からどちらかに属していた方が楽でしょう」(55 頁)

● 組織のなかでは建前を通し黙っているが、自己主張、自己表現が溢れるほど強いロシア人。……(ときには日本人と比べても極端に内気で恥ずかしがり屋がいるが)、ロシア人は性格においても中間、つまりほどほどに内気、ほどほどに無口という人はいないようだ。(61 頁)

● レストランでの注文だけではない。時間に制限のあるときは、ロシア人たちの選択に任せてはいけない。彼らは選択肢があるときは他人と同じモノを選びたくない。あの人が A

を選んだのなら、A を避けて B にする。C はまだ誰も注文していないから C でいく。というふうに他人の選択したもののマネはしたくないから、誰も選ばないものを選ぼうとする。(75 頁)

● 他人と同じ選択はしたくない。値段や中身よりも自分の好みを優先する。食べるに困らない限り大量生産の仕事は受けない。間違っていない。

しかし、このかたくななプライドと自我の強さゆえ、ロシア人は時にはいとおしいほど孤独に見える。(78 頁)

● 好きな女性が現れるたびに結婚、離婚を繰り返していく。常に真剣勝負をするエネルギーは大変なものだろうが、それが彼の生きる原動力にもなっている。不倫のような中途半端な関係を保つことは不得手のようで、この国で結婚、離婚、再婚の話題は事欠かない。(87 頁)

● ロシア人と協同作業でモスクワ、サンクトペテルブルグで様々なイベントを手がけた。

「ナカオさん、そんなに慌てないで」

「ナカオさん、大丈夫よ、心配ないから」……。

日本側では広告代理店が作成するイベントは分刻みでの進行表と役割の台本がある。……。

細かい台本を作ってもどうせ、その通りに進まないのだから、大まかに決めておいて細かいことはその場、その場で対応していくというのがロシアだ。(114 頁)

● 綱渡りのようなロシア式やり方に最初は慣れなかった。日本人から見たらイベント当日が近づいても準備不足、詰めが甘いと思えない。

しかし、今ではロシアで開催するロシア人によるイベントは彼らに任せて大丈夫だと思い始めている。台本がなくても、台本がアバウトでも大丈夫。

なにしろ百年余の間に帝政ロシアから社会主義国家へ、そして社会主義から自由主義国家へと歴史的ハプニングの綱渡りを乗り越えてきている。台本通りの予定調和で生きて来たわけではない。

「なんとかする」「なんとかなる」という台本ナシのロシア人を見捨てないで欲しい。

日本人にとってはロシア人の対応力と切り換えの早さは時には羨ましいとも思う。(117 頁)

● ビジネスでもサプライズやハプニングを前提として、トラブルも起こった時点で迅速に解決法を決断するロシア人たちと、やたらコンプライアンスに縛られ、スケジュールに忠実で何事にも「本社に伝え、検討します」という日本側ではタイミングも合わない。

そこで行司役の出番となる。

日本企業の意味決定のプロセスをロシア側に説明。そして「検討します」の回答には楽観しないように。……。

日本側にはロシアの法律にはまだ溝があり、税法、会計法、労働法、…などビジネスに直接間接に関わる法律も

度々変えられ、しかもロシア人でさえ変更を周知できていない場合がある事情を説明。……。

法律が不備で役所間でも溝があるということは、解決方法も多様にあるということ。ロシアでは問題が起こってもなんとか解決の道がある。法律が不備だから生きていけない、ビジネスが出来ないということはない。(130-131 頁)

● ロシア人はビジネスが好きだ。

が、ロシア人の感性は存外ビジネスに不向きである。

ビジネスには退屈だけれど一定のパターンがある。が、ロシア人は一定のパターンというものが好きでない。放っておけばルールや型からはみ出していくのがロシア人。

ロシア人に「ビジネスって一言でいえば何？」と質問した。

即座に「チャンス」という言葉がかえってきた。

最初からワクワク、ドキドキ感を求め、資金、情報、ノウハウ、タイミング、人脈など二の次で、アイデアを便りに夢と野心で突き進んだあげく躓いて傷をおう。

深く傷つき一瞬は落ち込むが立ち直りも早い。見切りをつけると同時に方向転換する。未練を持たない。持たないふりをする。ふりをしている内に諦めがつき、すでに次に向かっている。(131-132 頁)

● ロシア人は我が身のごとく知人の喜怒哀楽にも共感し、他人の不幸や悲しみに我が身のごとく熱い心情を発露する。逆にいえば人の生活や心のなかにノックなしで入りこんでくる。(140 頁)

● ロシア人は大量生産や人工的なモノより、手作り、自然の産物、伝統的なモノ、あるいは地場産のモノを高く評価する。それは他国の産物においても同じだ。

ソ連時代は欲しいものが自由に手にできなかった。

買い物の楽しさに飢えていた欲求不満を解消するように資本主義経済の扉が開くと、目の前にある欲しいものは無理しても所有したい、お金よりモノへの執着が高くなる。……。それこそ「宵越しの金は持たない」的な楽天的、利他的傾向が生じる。

このような消費者にモノを売るのは彼らの嗜好さえ知っていればそんなに難しいことではない。(155 頁)

どうですか。あなたのロシア理解と照らし合わせて思い当たることがありませんか？

本書は、筆者のロシア体験、ビジネス経験をもとにややアランダムに書き連ねたエッセーなので、体系だったロシアビジネス本ではないが、それだけに読みやすく、ロシアという国やロシア人についての何事かを体感的に理解する上で格好の参考書となっている。ロシア人との考え方の違いは違いとして、しかし、筆者の目はどこまでも温かくロシア人を見守っている。これからロシア人とビジネスやその他の関係で付き合っていく方には、是非、一読を勧めたい本の一つである。(F)

♪♪♪ OTTAVA サロンコンサート ♪♪♪

マリウス・プティパ生誕 200 周年記念

レクチャー+ピアノ+影絵で甦る
幻のバレエ《魔法の鏡》

《眠れる森の美女》《くるみ割り人形》など、現在も頻繁に上演されるクラシック・バレエの振付けをほとんど手がけた偉大なバレエマスターのマリウス・プティパは、舞台人の家族の下に、1818 年フランスで生まれました。ヨーロッパやアメリカで舞台に立った後、1847 年ロシアに渡り、以来、舞踊手・振付家として 50 年以上も活躍します。当時のロシア皇室は大変なお金持ちだったので、西欧から大勢の芸術家を招いて、オペラやバレエにも力を入れていたのです。

プティパは、バレエマスターと呼ばれるバレエ団のトップとして長らく君臨します。チャイコフスキーの曲を用いた、いわゆる「三大バレエ」(前述の二つに《白鳥の湖》を加えたもの。ただし《白鳥の湖》を最初に創ったのはプティパではなく、ライジンゲルというチェコ人のバレエマスター)などの演出・振付で大きな成功を収めますが、ロシア帝室劇場の最後の総裁であるウラジーミル・テリャコフスキーとは折り合いが悪く、1903 年のバレエ《魔法の鏡》を最後に引退します。



このバレエ《魔法の鏡》は「失敗作」の烙印を押され、失われてしまいました。現在ではピアノ譜や舞台美術と衣裳のデザイン画、古い舞踊譜が残っているだけです。しかし「失敗」の本当の理由はわかっていません。テリャコフスキーの陰謀説や、プティパの時代は終わりつつあったという意見もあります。しかしプティパのバレエは常に人気があり、今日にいたるまで 100 年以上も上演され続けているのは、既に述べたとおりです。なぜ《魔法の鏡》は闇に葬られてしまったのでしょうか？

美術を担当したのは、アレクサンドル・ゴロヴィーンという新進の画家でした。テリャコフスキーのお気に入り帝室劇場



の専属舞台美術家でしたが、プティパは(当時としては)前衛的なゴロヴィーンの美術が気に入らなかったようです。一部の批評家からも辛辣に批判されました。しかし、ロシア人のバレエダンサーたちを西欧に紹介した「バレエ・リュス」や、文芸雑誌「芸術世界」の活動で有名なセルゲイ・ディアギレフとその仲間たちは、ゴロヴィーンを擁護しました。

《魔法の鏡》のバレエ音楽を作曲したアルセニー・コレシチェンコは、モスクワ音楽院で、ラフマニノフの師でもあったアレンスキーの下で学びます。ラフマニノフより以前にモスクワ音楽院で大金メダルを受けたのは、このコレシチェンコとタネーエフだけでした。帝室劇場では、同じゴロヴィーンの美術と有名な歌手フィodor・シャリャーピンの出演で、《氷の家》というオペラも上演されています(ただし、このオペラも現在は失われてしまいました)。将来を嘱望された作曲家だったのに、今では名前を知る人もほとんどなく、作品が上演されることはまずありません。

プティパが振付けた幻のバレエ《魔法の鏡》は、チャイコフスキーの三大バレエに勝るとも劣らない、美しい楽曲です。今回は、解説と共に、ピアノ演奏による抜粋版をお聴き頂きます。当時のバレエを見ることはできませんが、素敵な影絵でイメージを膨らませて下さい。

マリウス・プティパは、今年、生誕 200 周年を迎えます。彼の功績をたたえ、ロシア国内外で様々な催し物や記念行事が開かれています。本コンサートでも、これまであまり知られていなかった作品に光を当てて、帝政ロシア華やかなりし頃のバレエに思いを巡らせてみたいと思います。

◆本企画は 2016 年 12 月に東京・本郷のボン・アートで行い、満席大好評だった「失われた帝政ロシアのバレエと音楽」の拡大版です。

■プログラム

♪レクチャー:「マリウス・プティパとロシア・バレエ」(予定)
講師: 平野恵美子(日本アレンスキー協会会員、東京大学)

♪演奏: A・コレシチェンコ作曲《魔法の鏡》

ピアノ: 長江美和、影絵: 山田大祐

■日時 2018 年 10 月 25 日(木) 開演 19:00(予定)

■会場 紀尾井町サロンホール

東京都千代田区紀尾井町 3-29 紀尾井町アークビル 1F

■お問い合わせ(* 詳細は 8 月以降にお知らせします)

OTTAVA サロンコンサート係

Email: s-concert@ottava.jp

電話 03-3288-1017(平日 11-18 時)

リトアニアのカウナスにある杉原千畝記念館を紹介します。1939 年 8 月から 40 年 8 月までカウナス日本領事館の領事代理を務めた外交官・杉原千畝は、第二次大戦下ナチス・ドイツの迫害から逃れようとするユダヤ人難民を救うために、本国の訓令に反して日本通過ビザを発給し、6000 名以上の命を救いました。杉原記念館は日本人観光客が訪れる定番ポイントになっていますが、「日本のシンドラ」^①と称賛される杉原を通じてリトアニアやバルト諸国で日本への好意や関心を高める絶好のポイントにもなっています。(編集部)

カウナスの杉原記念館 杉原千畝と「命のビザ」

ユダヤ人難民

1940 年 7 月 18 日、早朝。約 200 人にもおよぶユダヤ人たちが日本の通過ビザを求め、カウナスの日本領事館に押し寄せました。彼らは、ナチス・ドイツの迫害から逃れようと移動を続け、辛うじてカウナスにたどり着いたところでした。これから先、ソ連、日本を経由し第三国に逃れるためには日本の通過ビザが必要でした。それが彼らに残された、生きるための唯一の手段だったのです。

押し寄せてきたユダヤ人難民を前に、杉原は悩みました。ビザを発給するには多くの問題があったからです。通過ビザの発給には、最終受入国の許可、十分な旅費の所持、身分証明書の提示など様々な条件がありました。しかし、杉原のもとに現れたユダヤ人たちの多くは、その発給条件を十分に満たしていませんでした。正式なパスポートを所持していたのはごく一部で、ほとんどのユダヤ人は最終目的地が「キュラソー」と書かれた紙切れしか持っていなかったのです。渡航費用を十分に持たない者も多数いました。

当時、日本はドイツと日独防共協定を締結しており、ドイツとの友好関係を保つのが国の方針でした。ユダヤ人にビザを発給すればナチスを刺激する可能性があります。

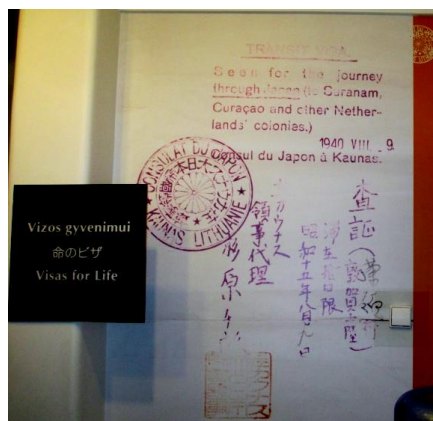
これらの問題を踏まえた上で、ユダヤ人たちを救うために、杉原はビザ発給の許可を本国に求めました。杉原の電報には、彼らを見捨てることは人道上拒否できないと記されていました。しかし、外務省からの返答はノー。「渡航条件を満たさない者には、通過ビザといえども発給してはならない」との内容でした。

* キュラソービザ

日本の通過ビザ取得の際に重要な条件の一つだったのが、最終受入国のビザです。しかし、ユダヤ人難民に対して入国ビザを発給する国はほとんどありません。この問題の解決に力を貸したのはオランダの領事ヤン・ツバルテンディクでした。ツバルテンディクはカリブ海のオランダ領キュラソー島に目をつけました。この島ならば関税もなく入国審査の必要もないため、誰でも入国することが可能で、通過ビザ発給



写真上、杉原記念館
写真左、「命のビザ」
(記念館の展示より)



に必要な最終受入国となり得ます。ツバルテンディクはユダヤ人の最終目的地をキュラソー島と記した「キュラソービザ」を発給したので

す。このビザを持ったユダヤ人たちが日本領事館に向かい、日本の通過ビザを受領しようとしたのです。

6000 人の命のビザ

杉原は外務省からの訓令と領事館前に集まったユダヤ人難民を前に悩みました。そしてついに、本国の指示に反してビザを発給することを決断したのです。彼は 1940 年 7 月 29 日から日本通過ビザの発給作業を開始しました。

決断するやいなや、杉原は寝食を忘れてビザを書き続けました。大量のビザを手書きしたためにほどなくして万年筆は折れ、ペンにインクをつけて書かなければならなくなりました。睡眠不足による疲労と指にできたマメ、全身の関節の痛みが杉原を襲います。杉原は家族に危害が加わることを恐れ、ビザ発給を家族には一切手伝わせませんでした。

8 月 3 日、リトアニアはソ連に併合され、日本領事館は 8 月 25 日付で閉鎖されることが決まります。杉原は領事館閉鎖後もカウナス市内のホテル・メトロポリスに移りビザを発給し続けました。そして 9 月 5 日、リトアニアを離れるその日になっても、カウナス駅のホームで杉原はビザを書き続けます。出発時間が迫り、列車に乗ってからも、車窓からビザを発給し続け、まさしく最後の最後まで、杉原はビザを書き続けたのでした。

杉原がビザ発給を決断してから、リトアニアを離れるまでの約 1 ヶ月間で発給したビザは、確認されているだけで 2139 枚。子供や家族を含めるとビザを受け取った人は 6000 人以上にのぼります。

シベリアを通過してウラジオストクから日本へ

杉原からビザを受け取ったユダヤ人たちは、一度ソビエト連邦の首都であるモスクワに行き、シベリア鉄道に乗って極東の地ウラジオストクへ向かい、そこから船に乗って日本(敦賀)に上陸するというルートをたどりました。ソ連はユダヤ人の領内通過を認めていました。しかし、ユダヤ人たちはその道中様々な危険と困難に直面することとなりました。長い旅を経て、ようやくウラジオストクに到着したところには、ほとんどのユダヤ人が着の身着のままという状態でした。福井県の敦賀港にはかつてウラジオストクとの定期航路が就航していました。敦賀に到着したユダヤ人たちは、日本に長期滞在が許されていなかったために、足早に神戸や横浜などの国際船が就航する港町をめざしました。日本のユダヤ人協会の協力のもと、彼らは上海やアメリカなどへの移住を試みましたが、彼らの長く険しい旅路は第二次世界大戦の終結まで続きました。

[以上、早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター編集「杉原千畝本」(2016 年 6 月発行)を参照]

その後の杉原千畝

カウナスを退去した杉原千畝は、プラハ(チェコ)、ケーニヒスベルグ(当時ドイツ領)、ブカレスト(ルーマニア)での勤務を経て、1945 年 8 月に日本の敗戦を迎えます。ブカレスト郊外の捕虜収容所で約 1 年間過ごした後、1947 年 4 月に日本に帰国しました。しかし、待っていたのは外務省からの「退職通知書」でした。

「杉原が懲戒処分を受けたという記録は残っていない」と外務省は取り繕いますが、本省の指示に背いて通過ビザを発給し続けた結果が「退職通知書」であったことは間違いなく、それは事実上の懲戒処分でした。その証拠に、戦後、杉原に命を助けられたユダヤ人たちが日本外務省に「センポ・スギハラ」(杉原は、外国人にも発音しやすいように、センポ・スギハラと自分の名前を教えていました)の行方を問い合わせた時、外務省はいつも「該当者なし」「そのような外交官は存在しない」と回答し続けたのです。

外交官の職を辞した杉原は、通訳や貿易会社、ロシア語教師などの職を転々とした後、1960 年に川上貿易のモスクワ事務所長、1965 年から国際交易モスクワ支店の代表に就き、その卓越した語学力を生かして日ソ貿易の分野で活躍しました。

杉原のビザで命を助けられたユダヤ人で、イスラエルの大臣や政府職員になっていた人たちと杉原が再会したのは 1969 年になってからのことです。1985 年 1 月、イスラエル政府は多くのユダヤ人の命を救出した功績により、日本人では唯一の「諸国民の中の正義の人」賞を杉原千畝に授与しました。

杉原千畝は 1986 年 7 月に 86 歳で死去しましたが、その

後、映画やテレビドラマを通じて杉原の「命のビザ」の功績が広く知られるようになりました。さしもの外務省も「該当者なし」と言い続けることができなくなり、日本政府によって公式の名誉回復が行われたのは 2000 年 10 月のことでした。

当時の河野洋平外務大臣は次のように演説しました。「これまでに外務省と故杉原氏の御家族の皆様との間で、色々御無礼があったこと、御名誉にかかわる意思の疎通が欠けていた点を、外務大臣として、この機会に心からお詫び申し上げたいと存じます。日本外交に関わる責任者として、外交政策の決定においては、いかなる場合も人道的な考慮は最も基本的な、また最も重要なことであると常々私は感じております。故杉原氏は今から 60 年前に、ナチスによるユダヤ人迫害という極限的な局面において人道的かつ勇気ある判断をされることで、人道的考慮の大切さを示されました。私はこのような素晴らしい先輩を持つことができたことを誇りに思う次第です。」

カウナスの杉原記念館(Sugihara House)

杉原千畝の人道的な功績を称え、その精神を次代に伝える資料館として、2000 年に実際にビザが発給された在カウナス日本領事館の建物の中に記念館が設置されました。5 つに分かれた展示室では、ビザ発給関連資料や解説パネル、杉原に命を救われたユダヤ人の証言映像等の上映が行われています。

開館時間:

夏季(5-10 月) / 月～金 10:00-17:00 / 土日 11:00-16:00

冬季(11-4 月) / 月～金 11:00-15:00 / 土日休館

入館料金: 大人 4 EUR、学生 2 EUR

住所: Vaizganto 30, Kaunas, Lithuania, LT-44229

ホームページ: www.sugiharahouse.lt



写真: 左＝カウナス駅、右＝メトロポリスホテルの顕彰プレート

ホテル・メトロポリスとカウナス駅の顕彰プレート

杉原が領事館を退去した後に滞在しビザの発行を続けたカウナス市内のホテル・メトロポリスと、列車の発車間際までビザを発行したカウナス駅に、2015 年に顕彰プレートが取り付けられました。寄贈したのは元日本大使・白石和子氏。

また、リトアニアの首都ビリニュスには杉原の功績に因んで命名された「チウネ・スギハラ通り」があります。

なお、カウナスの杉原記念館は、杉原千畝の出身校である早稲田大学や出身地とされる岐阜県八百津町、また多くの日本人観光客の寄付金によってその運営が支えられています。

日本国内では、岐阜県八百津町に杉原千畝記念館があります。また「命のビザ」でユダヤ人が上陸した福井県敦賀市の人道の港・敦賀ムゼウムでも杉原コーナーを設けてその功績を展示しています。

杉原千畝(すぎはら・ちうね)略歴

1900 年 1 月 岐阜県武儀郡上有知町(こうずちちょう、現在の美濃市)に生まれる
 1918 年 早稲田大学・高等師範部英語科に入学
 1919 年 10 月 早稲田大学を中退、中国・ハルビンの日露協会学校(後のハルビン学院)に入学(1923 年 3 月修了)
 1924 年 外務省書記生に採用、ハルビン大使館二等通訳官
 1932 年 満州国外交部事務官(1935 年に退官)
 1937 年 在ヘルシンキ日本公使館に着任
 1939 年 8 月 在カウナス日本領事館・領事代理
 1940 年 9 月 在プラハ日本領事館・総領事代理
 1941 年 12 月 在ブカレスト日本公使館・一等通訳官
 1945 年 8 月 日本敗戦によりブカレスト郊外のソ連軍捕虜収容所に収容される
 1947 年 4 月 日本に帰国、「退職通告書」により外務省退職
 1957 年 NHK 国際局に勤務
 1960 年 川上貿易モスクワ事務所・所長
 1965 年 国際交易モスクワ支店・代表
 1975 年 国際交易を退職し、日本に帰国、鎌倉に住む
 1985 年 1 月 イスラエル政府より「諸国民の中の正義の人」賞を授与される
 1986 年 7 月 鎌倉にて逝去

◆◆編集後記◆◆

▼FIFA ロシア大会は、ともに前評判の高くなかった日本チームとロシアチームが予選リーグを突破して、大いに盛り上がっています。▼ワールドカップのおかげで JIC アウトバウンド部のスタッフは繁忙期が 2 カ月早く始まって大忙し。「サランスクってどこ?」「モスクワから何時間?」「車でも行ける?」「ホテルはある?」「ボルゴグラードは?」…。これまであまり手掛けたことのない町の手配に追われ、度々気が変わる客の気まぐれにも振り回されました。▼最近、旅行業をめぐる環境と旅行需要の内容が大きく変化しているように感じます。その辺の分析もしっかりやって、変化に対応しなければと思います。(F)

JICのロシア語留学・研修

29 年間の実績「だから、JIC のロシア語留学」

JIC ロシア語留学研修は、JIC 国際親善交流センターが日本で最初に旧ソ連・ロシアの諸大学と直接契約により開始した私費留学システムです。この 29 年間で JIC がロシアに送り出した留学生は長期・短期合わせて 3,500 名以上にのぼります。

安心の現地アフターケア

留学中はできる限り自分のことは自分でやっていただくのが語学力上達の道です。しかし、一人ではどうしても解決できない大学との交渉ごとや、緊急事態の際の連絡対応など、留学される皆様をバックアップするために、JIC では各受入機関と緊密な連絡体制を整えています。

ロシア語長期留学19年4月生・募集開始



**締切は12月
早い日にお申し込みを!**

期間：2019年4月1日より10ヶ月

**締切: モスクワ、ペテルブルグ、ミンスク 19年1月16日
ウラジオストク極東連邦大学18年12月21日**

モスクワ国立大学 720,000 円(授業料 10 ヶ月)

サンクト・ペテルブルグ国立大学 786,000 円(授業料 10 ヶ月)

ウラジオストク極東連邦大学 316,000 円(授業料 10 ヶ月)

ミンスク言語大学 322,000 円(授業料 10 ヶ月)

※上記の金額以外に別途、寮費、手配料、渡航費用、ビザ代金および取得手数料などががかかります。

◆JIC ロシア留学デスク◆

ロシア留学・旅行のお問合せ・ご相談に応じます。
お気軽にお越しください。

東京事務所 平日 9:30-18:00 03-3355-7294

大阪デスク 平日 9:30-16:00 06-6944-2341

※留学相談は、必ず事前に予約してお越しください



7月~11月の予定

8月4日 JIC 長期留学9月生 説明会(東京、大阪)

8月末 モスクワ、ペテルブルグ、ミンスク留学生 出発

9月末 極東連邦大学留学生 出発

10月上旬 JIC 東京 ロシア語講座 後期スタート!

10月上旬 JIC 大阪 ロシア語講座 後期スタート!

11月中旬 JIC ロシアセミナー(東京)

最新情報は JIC のホームページに随時掲載いたします。

その他のロシア情報も満載です!!